

金谷有剛 (かなや ゆうごう)

(国研)海洋研究開発機構(JAMSTEC)

地球環境部門

地球表層システム研究センター

IGAC (地球大気化学国際協同研究計画)

国際科学運営委員、

日本学術会議 (連携会員) 、

IGAC小委員会委員長、

Future Earth (FE) 国際事務局日本ハブ



Future Earth 10年最大の功績 :

科学の粹を集め、**気候変動の原因を人間活動と断定**

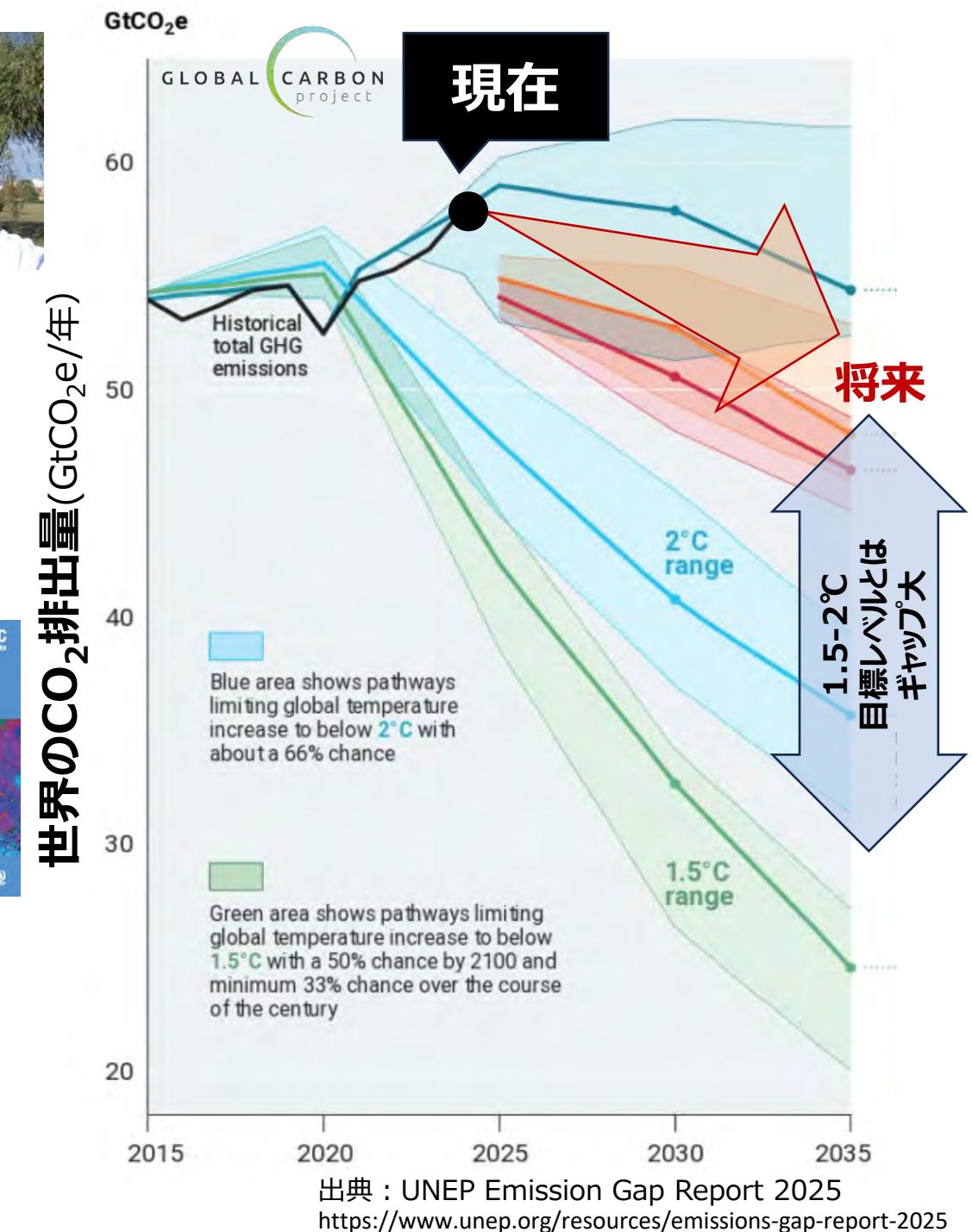
IPCC AR6(2021年) 物質・生物の知が物理気候に加わる



写真提供：国立環境研究所

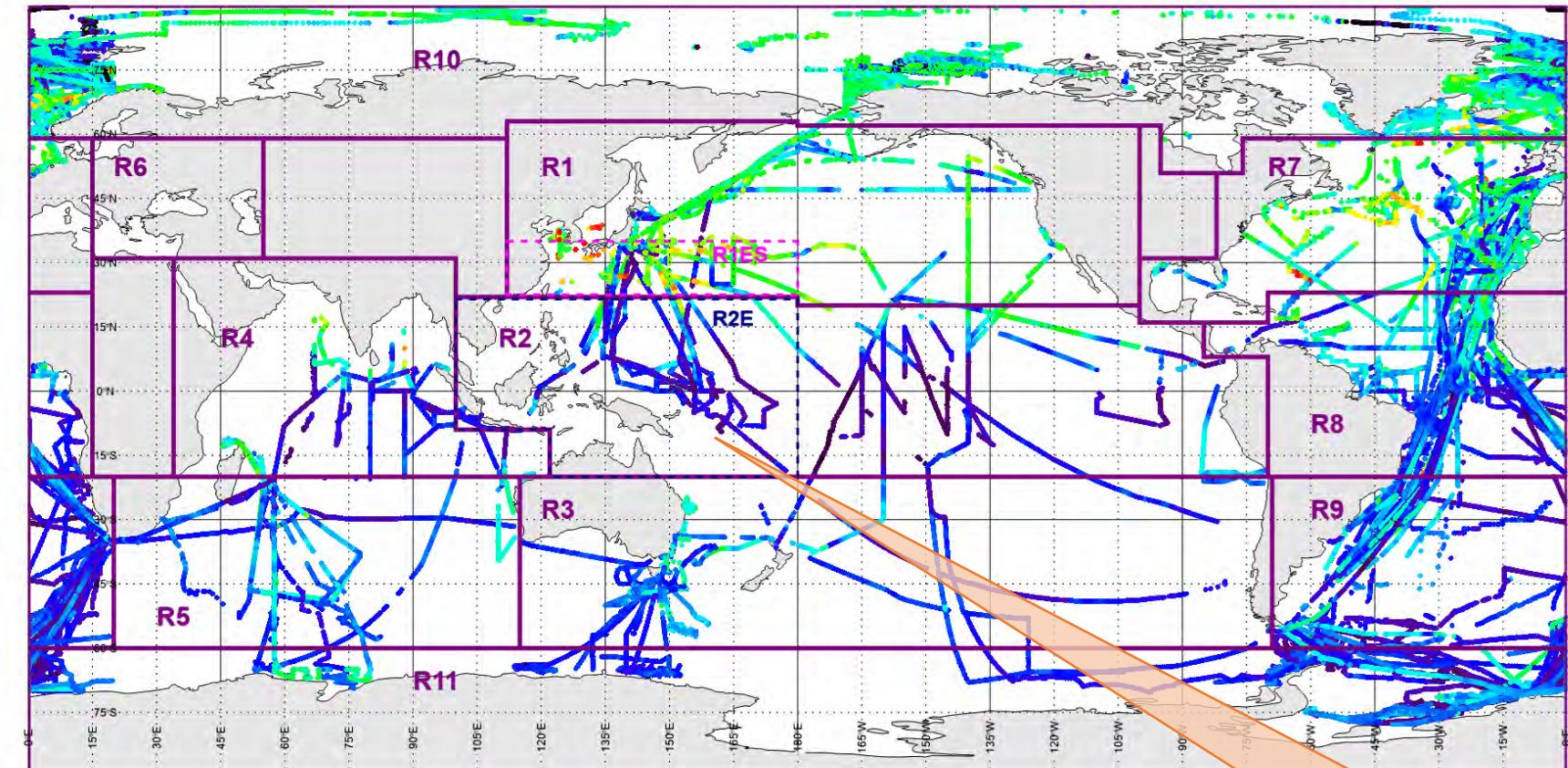
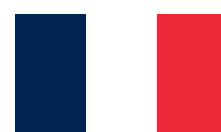
カーボンニュートラルへ  
向けた協調行動

COP/UNFCCCでは  
新たな衛星観測利用  
セミナーで金融・民間・  
アカデミアが一緒に登  
壇





- 海洋地球研究船「みらい」からの海洋大気中オゾン濃度データを種火に、国際協力を引き出し、10倍の世界データを手にした。公開・論文化、アセスメントを実現。人とのつながり。



# 専門研究「も」十分に推進すべき これからの「Future Earth 2.0」

研究の力点は？ **2015年 vs. 2025年**

GRN運営委員級国内研究者層(n=19)への一斉  
調査(2025年1-2月)

超学際研究は進んだが評価されず

専門の深化との間の「ジレンマ」

横断的知見構築には専門分野を追究する  
時間も必要

(例：「気候安定化」と「汚染軽減」の  
シナジー・トレードオフ関係理解)

(C)超学際

futureearth  
Research. Innovation. Sustainability.

(A)専門内

(B)学際

